



# みどりの風



令和7年2月21日発行

## 人生は自分でつくるもの

校長 安藤 晋哉

月日が経つのは本当に早いものです。今年度もあと1か月余りとなりました。公立高校の入試を数日後に控え、受検生は緊張していることと思いますが、これまでの努力を信じ、自分の力を精一杯発揮してほしいと思います。

さて、今回はある有名な人物の生い立ちを紹介します。波瀾万丈の人生で、驚く人もいます。いったい誰なのか予想しながら読み進めてください。

学歴は小学6年生まで、早くに父親を亡くし、工場で働く母親の代わりに料理を作ったり、パンを焼いたりしていました。10歳から農場で働き始めました。その後、市電の車掌、陸軍に入隊、鉄道の機関車修理工、ボイラー係、機関助手、保険外交員などを転々として、40種類以上の職業を経験したアメリカ人です。30代後半で、小さなガソリンスタンドを開きました。周りに住んでいる農民にガソリンを売っていました。1929年、干ばつで農作物がとれないことと、銀行やいろいろな店がつぶれたり物の値段が下がったりするなどの大変な混乱が起こり、ガソリン代が集められずにガソリンスタンドは倒産しました。



1930年、40歳の時2度目のガソリンスタンドを開きました。そして、スタンドの隅の小さな物置を改造して、テーブル1つ、座席6つの小さな食堂を作りました。自分で作った料理を出し、やがて料理がおいしいと評判になりました。お客さんがおいしい料理を食べるために行列を作って並ぶようになりました。

しかし、49歳の時、食堂が焼けてしまいました。もう一度、食堂を建て、51歳で147席もある大きなレストランに広げました。その後、近くに高速道路が通ったために、お店にお客さんがあまり来なくなり閉店しなければならなくなりました。レストランは売りに出され、残ったものは、料理に使っていた器具と古い車だけでした。その時、彼は65歳でした。



彼は、残った調理器具と古い車だけという彼の全財産を使って、評判だったチキンの調理方法を教えてまわる商売を始めたのです。チキンが一羽売れるたびに、5セント受け取るという取り決めで、アメリカ全土を車でまわりながら、調理方法を教えていきました。世界初のフランチャイズ制度の始まりです。

もう、わかりましたか。彼の名は、「カーネル・サンダース」皆さんご存じの「ケンタッキー」のお店に置いてある人形のおじさんです。本名は「ハーランド・サンダース」。ケンタッキー州知事から、名誉称号「カーネル」を与えられたそうです。彼の言葉に「人生は自分でつくるもの。遅いということはない。」という言葉があります。いろいろなことがあっても、そこからあきらめずに立ち上がっていった人の言葉です。

人生は自分で切り拓く。失敗を失敗にせず、次の挑戦やいずれ出会うであろう「成功」につなぐ粘り強さと行動力が大切であると感じました。

この話は正解のないこれからの社会を生き抜いていく上で、参考になると思います。私はこの話を教えてもらった時、「よし自分も頑張ろう」と励まされたことを今でも忘れません。

